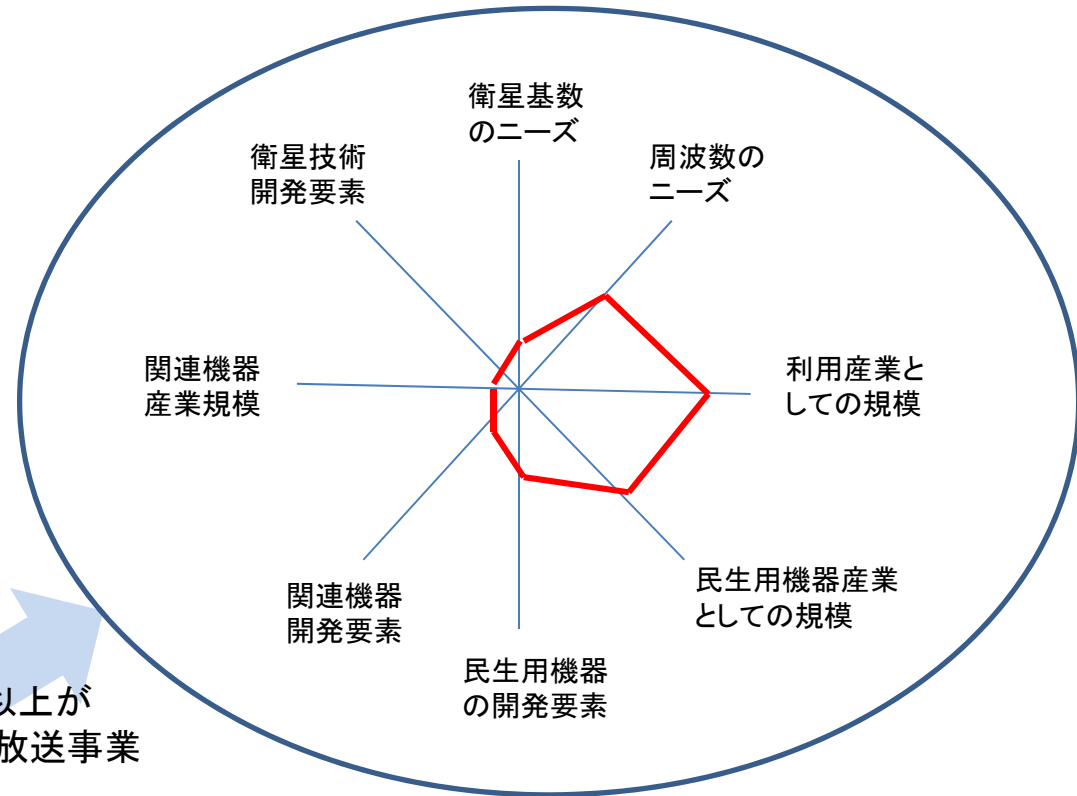
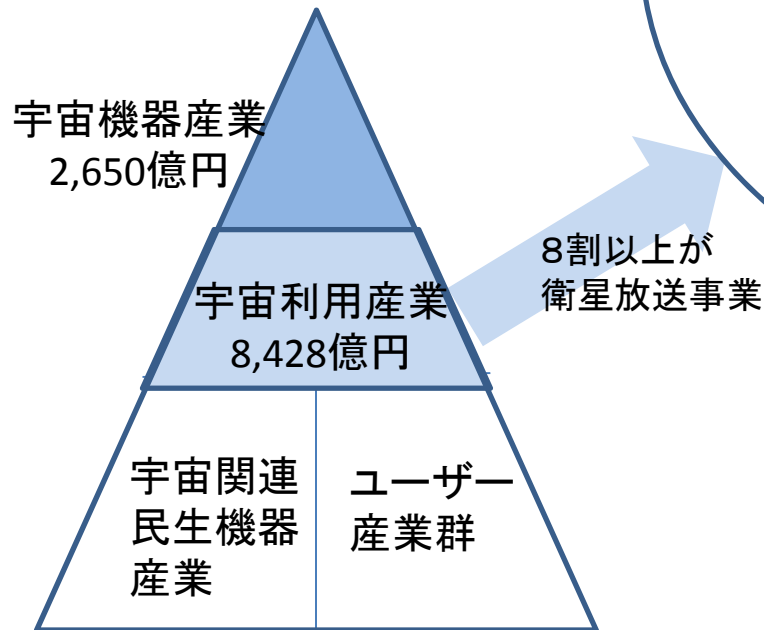


4K・8K放送の推進と 宇宙利用産業の拡大について (メモ)

スカパーJSAT(株)
取締役執行役員副社長

仁藤雅夫

宇宙利用産業における 衛星放送事業の特徴



宇宙利用産業拡大のための要素と衛星放送事業の特徴(イメージ)

- ・利用産業としての規模は大きい。
- ・まとまったトラポン需要がある。
- ・ただし、軌道位置は分散せず、まとまっているのが望ましい(衛星基数の需要につながりにくい)。
- ・衛星としては新たな技術開発要素は大きくない。
- ・したがって、宇宙機器産業への貢献度は大きくない
- ・受信機やアンテナといった民生機器の産業はそこそこ大きい

4K・8K放送と宇宙利用産業の拡大

1. トラポン需要

124・128° CS 4K 1ch／トラポン
BS、110CS 8K 1ch／トラポン、4K 2～3ch／トラポン
海外でも4K放送の動き活発化。世界的な衛星トラポン需要の喚起には大きな要素。

2. 国内衛星需要

124・128° CS 現行の2衛星で対応（MPEG2放送終了後の帯域利用）
BS、110CS 現行の右旋偏波に加え左旋偏波を搭載して対応

3. 宇宙利用産業拡大への貢献

- (1) 地上波では実現困難。衛星の優位性あり。
- (2) 画質の向上はもちろん、放送番組の魅力度アップが期待される。
 広角画面、臨場感、自然な3D感、質感、色域拡大、画面分割 など
- (3) 上記を通じて、4K・8Kによる衛星放送サービスの市場拡大。
- (4) 日本は4K・8K放送サービス開発の最前線。放送関連事業の国際競争力の向上を目指す。
- (5) 新たな受信機、左旋対応アンテナなど民生機器における需要創出。
- (6) 放送以外の利活用（医療、教育、サイネージ、映画以外の映画館用コンテンツ(ODS)）

4. 4K・8K放送推進のロードマップ

2014年 : 試験放送開始(124・128CS)
2016年 : 希望者が8Kを体験できる環境
2020年 : テレビによって4K・8K放送が視聴可能な環境
さらに詳しいロードマップの策定を議論中（総務省）
今後の新たな技術進歩に対応できる長期の衛星利用計画が必要と考える。